

本時のねらい

・リズムにメロディを重ね、自分の設定したテーマに合う音楽を表現することができる。

本時における 1 人 1 台端末の活用方法とそのねらい

・ピアノアプリを活用し、音の確認ができる。また、友達と音楽を共有し、工夫を加えることができる。
・自分で創作したリズムや旋律を確認しながら演奏することができる。

活用した ICT 機器・デジタル教材・コンテンツ等

・ iPad ・ロイロノート ・ピアノアプリ ・画面収録 ・テレビモニター

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT 活用のポイント・工夫
導入 (10分)	<ul style="list-style-type: none"> ・校歌の歌唱。 ・前時に創作した 2 小節のリズムを確認する。 ・実際にリズムを手拍子で表現する。 ・前時にロイロノートで送りあったリズムを共有し練習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音符が示す音の長さが見てわかるリズムカードを表示する。
展開 (25分)	<ul style="list-style-type: none"> ・前時に創作したリズムを書き写す。 ・リズムを正しく表現できるか確認する。 ・「ドレミファソラシド」の音を使う事を指示する。 ・鍵盤だけでは音がわからなければ、ピアノアプリの機能を使って付箋で音を表示する。 ・鍵盤の音を確認しながら、リズムに音の高低を付けていく。 ・1 つの音符に 1 つの音を付けるように指示する。 ・創作する曲のテーマをロイロノートで提出する。 ・班から出た意見を参考に、作り直したり、改善したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ロイロノートに入っているリズムカードを確認する。 ・ピアノアプリを開き、鍵盤の音を確認する。 ・ピアノアプリを使って、メロディを創作する。 ・ロイロノートの送信機能を使って、学習班の仲間にメロディを送信する。友達がどんなイメージをもって創作しているか共有する。
まとめ (15分)	<ul style="list-style-type: none"> ・リズムに合わせてメロディが弾けているか確認をする。 ・画面収録で自分のつくった曲を録音し、自分の設定したテーマのカードとつないでロイロノートを活用して提出をする。 ・学習班で創作した曲を確認し合う。 ・次回、学習班で作ったメロディをつなげて発表することを伝える。 ・振り返りに工夫したことを記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・出来上がったメロディを提出し、学習班でも送り合い、班で良いところを見つける。 ・課題や工夫点などを学習班で確認する。

1 人 1 台端末を活用した活動の様子

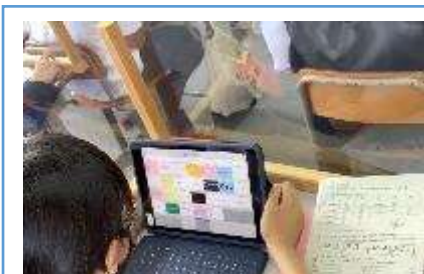


写真 1: ロイロノートで、それぞれのテーマをクラスで共有している場面。



写真 2: ピアノのアプリで、音を確認しながら、前回決めたリズムに音の高低をつけている場面。



写真 3: 創作した曲を学習班で確認し合い、アドバイスをしあって、より良いものに仕上げている場面。

児童生徒の反応や変容

タブレットは操作が簡単で、リズムのカードを選んで音を入れるだけで曲ができるので、音楽が苦手な鍵盤の音階がわからない生徒も、仲間との教え合いでがんばることができ、付箋を頼りに最後まであきらめず、集中して取り組むことができた。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

1 つ 1 つの音符が持つ音の長さの違いを理解することに ICT が役立つと実感した。便利なツールであるタブレットを用いて、生徒同士が関わりを持ちながら、音やリズムを考え表現する場面を設定することができた。音楽は、人と人とのつながりが大切だということを改めて子どもたちから学んだ。